

市民の力による

夏のイベント

市長 米本弥一郎



今年は、夏季観光の目玉である夏のイベントが通常開催となり、4年ぶりに旭の夏が戻ってきました。

7月の「旭市いいおかY・O・U・遊フェスティバル」には、花火大会などを目当てに、約9万5千人が集まりました。バザーや夜店、郷土芸能も大盛況で、約1万発の花火が打ち上げられると「日本で一番近くから観られる花火大会」のキャッチフレーズどおり、大迫力の光や音と共に、振動や火薬の匂いも体感できました。翌日の宝さがし、ビーチバレーボール大会にも多くの人に参加いただきました。ビーチバレーでは、汗と砂にまみれながらも、生き生きとボールを追う若者たちの姿に、パワーをもらいました。

8月には、第69回となる「旭市七夕市民まつり」が、2日間にわたり開催されました。商店街などを彩っ

た七夕飾りは、コンテストで最優秀賞に輝いた田町本町通り会の創作飾りをはじめ、どの飾り付けも祭りを盛り上げようという人たちの思いと意気込みにあふれていました。栈敷席から観覧した、神興みこしやお囃子はやし、踊りのパレードは、熱気と興奮の渦を巻き起こしており、市民の底力を感じたところです。

久しぶりに大勢の観光客を迎えた夏のイベントは、大きな事故もなく無事に終了することができました。開催に携わった全ての人に、敬意と感謝を申し上げます。実行委員会や参加団体の皆さまにおいては、イベント復活に当たり多大なエネルギーを使われたことと思います。市民の持つ情熱やエネルギーこそが、地域のコミュニティを支える力となり、旭のまちづくりにつながっていくものと確信しています。